

## 1 研究主題

### 学年団組織を活かし省察し学び続ける若年教員の育成 ～授業リフレクションシートを活用した学年団対話を通して～

坂出市立坂出小学校 教諭 阿部 聡子

## 2 研究の目的と動機

昨年度の実践研究では、若年教員が安心して日常的に学び続けることができる研修の場として学年団組織を取り上げた。そして、若年教員それぞれのニーズに合った研修を学年団会の中で実践する方法として、「授業リフレクションシートの活用」と「学年団対話」を組み合わせた自己省察プログラムを設定し、実践を行った。その結果、授業リフレクションシートの活用は、若年教員の課題の焦点化につながり、自己省察の意識化に効果的であることが分かった。また、日常的に関わりの強い学年団の先生方との対話は、若年教員の力量形成に大きく影響を及ぼすとともに学年団内の協働意識の高まりや教員の資質能力の向上にも影響が見られることが分かった。そこで今年度は、昨年度のアンケート結果から得られた課題をもとに自己省察プログラムの改善を行い、より効率よく負担なく継続的に取り組めるプログラムにすることを目的とし、本研究を実践した。

## 3 研究の概要

(1) 自己省察プログラムの説明と依頼(6月)

(2) 自己省察プログラムの実施(6月～12月)

① 「授業記録カード」による若年教員の実態把握(ステップ1 見つめる)

若年教員が7観点「学習課題、発問・助言、協働的な学びの設定、振り返り、構造的な板書、学習規律・学習環境、児童理解」の内1～2個に重点を置いて、授業実践を行い他者評価(管理職・指導教諭・学年主任)を行った。評価の指標は、6件法を用いた。昨年度は、指導教諭が実施していた授業記録シートと本研究で作成したシートが別にあったため、授業者及び他者評価する先生方の負担が大きかった。そのため、指導教諭と相談し「授業記録カード」の枚数を1枚とし、内容を精選し、記述量も削減した。

② 「自己分析シート」による自分の強み・弱み分析、今年度の目標設定(ステップ2 つかむ)

昨年度は、自己評価と他者評価をレーダーチャートに表示したが、「授業記録カード」から自分の強み・弱みは分析できることから、より簡単に記録できるようにした。また、若年教員が立てた目標は、「ちょっと学びタイム」により校内の教職員に周知し、目指す教員像について理解を図った。

③ 授業実践及び授業・学級経営リフレクションシートによる振り返り(ステップ3 気付く)

6月～11月にかけて月1回～2回、日々の授業を取り上げ授業リフレクションシートを用いて自己省察を行った。昨年度、学級経営についても要望があったので、学級経営に関する項目も書き込めるようにした。

④ 学年団対話によって自己省察を深める(ステップ4 深める)

③の授業リフレクションシートから明確になった課題や悩み、気付きに関する話題を若年教員が提示し、学年団の先生方と対話を行った。対話時間は、15分以内、月1～2回程度実施した。

⑤ 自ら目指す教員像・授業像へつなぐ(ステップ5 つなぐ)

自己省察(ステップ3)、学年団対話(ステップ4)での学びを活かし授業・学級経営改善を行った。

(3) 聞き取り調査・分析(11月末～12月)

(4) 職員研修

① 「ちょっと学びタイム(通信)」の作成配付

② 夏季休業日を活用した対話を重視した職員研修

・保護者との相談面接(講師を招いての講話と演習)

## 4 研究の成果と課題

今年度は、昨年度実施した自己省察プログラムが若年教員や支える学年団の先生方にとってより負担なく、継続可能な研修にしていくことが目的であった。ワークシートの内容を精選し、より簡素化することで今年度も継続実施につながった。また、学年団対話は15分以内と時間制限を用いたこと、若年教員が話し他の教員は解決策を若年教員から引き出すように心がけたことが若年の自己省察にも有効であった。今後は、さらにICTなども活用し、短時間でも学び合える研修にしていきたい。